

20265年 第73回関西学生アイスホッケーリーグ戦 大会要項

日頃より当連盟事業にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

各大学につきましてはスムーズな運営にご協力頂きますようよろしくお願い致します。

また、各大学につきましては日本アイスホッケー連盟が宣言しております、「フェアプレー&リスペクト」を

関西学連も実践することをご理解、ご了承いただき、協力頂きますようよろしくお願い致します。

【主催】 K. S. I. F. 関西学生氷上競技連盟、日本学生氷上競技連盟  
(後援) 大阪・京都・兵庫・滋賀・和歌山・奈良各府県アイスホッケー連盟

|                                 |      |
|---------------------------------|------|
| 【開催期間】                          |      |
| 1部・・・2026年 9月12日より11月22日まで      | 7チーム |
| (関西学院・関西・立命館・同志社・龍谷・京都産業・大阪工業)  |      |
| 2部・・・2025年8月29日より11月22日まで       | 8チーム |
| (大阪・神戸・大阪公立・甲南・京都・兵庫県立・近畿・桃山学院) |      |

開会式・閉会式は行いません。(個人賞などの授賞式は各ディビジョンの最終戦後に行います)  
\* 11月末で全日程を終了する予定ですが、場合によっては12月にずれ込む可能性があります。

【開催場所】  
滋賀県立アイスアリーナ、尼崎スポーツの森、浪速アイススケート場、関西大学たかつきアイスアリーナ

- 【試合方式】
- ①両ディビジョンで予選リーグ・・・1回戦総当たり(49試合)  
(延長戦無し、引き分けあり。1部は20分×3P 2部は15分×3P) 勝ち3点。引き分け両チームに1点。  
(10点差以上ついた時点からランニングタイム。9点差に戻った場合は正味タイム)
- ②予選を総当たりした後、3部構成にて行う(31試合)
- |   |      |      |      |      |                 |      |                 |
|---|------|------|------|------|-----------------|------|-----------------|
| A | 1部1位 | 1部2位 | 1部3位 | 1部4位 | 1回戦総当たり(20分×3P) |      |                 |
| B | 1部5位 | 1部6位 | 1部7位 | 2部1位 | 2部2位            | 2部3位 | 1回戦総当たり(20分×3P) |
- (延長戦あり、引き分けなし。10点差以上ついた時点からランニングタイム。9点差に戻った場合は正味タイム)
- |   |      |      |      |      |      |                 |
|---|------|------|------|------|------|-----------------|
| C | 2部4位 | 2部5位 | 2部6位 | 2部7位 | 2部8位 | 1回戦総当たり(15分×3P) |
|---|------|------|------|------|------|-----------------|
- (延長戦無し、引き分けあり。10点差以上ついた時点からランニングタイム。9点差に戻った場合は正味タイム)
- ※すべてに試合でタイムアウトあり。

|      |      |      |      |                      |                       |                       |
|------|------|------|------|----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1部1位 | 1部2位 | 1部3位 | 1部4位 | 合計 6試合<br>1チーム 3試合づつ |                       |                       |
| 1部5位 | 1部6位 | 1部7位 | 2部1位 | 2部2位                 | 2部3位                  | 合計 15試合<br>1チーム 5試合づつ |
| 2部4位 | 2部5位 | 2部6位 | 2部7位 | 2部8位                 | 合計 10試合<br>1チーム 4試合づつ |                       |

【競技規則】  
審判団、関西学連の定めるローカルルール以外は、アイスホッケー国際競技規則による  
〔注意1：ベンチにはプレーヤー以外(監督、コーチ、トレーナー、マネージャー)は6人までしか入れない。〕  
〔注意2：試合開始時刻(練習終了時刻時)までに競技者が6人揃っていない場合は不戦敗となる。〕

試合のレフェリーが試合時間に間に合わない場合は、ラインズマンにより定刻通り試合を行う。  
試合を行わないチームは棄権と見なし、0－15で負けとする。

〔注意3：試合中ペナルティー等で選手数が足りなくなった場合（5人以下）は、その時点で試合は終了とし0－15の負けとする。〕ただし勝利を宣言されたチームがその時点で16点以上得点している場合はその得点を、敗戦を宣告されたチームに関しては、常に0点として記録される。

- ・監督、コーチ、トレーナー、選手以外は試合中にベンチに入ることを禁止する。（けが防止のため）
- ※マネージャーはベンチ入り禁止。ただしドアマンの場合はフルフェイス着用で出務可能。
- ・1部の各試合、ゲームスーパーバイザーを配置する
- ・1部の各試合、決勝リーグ戦よりレフェリースーパーバイザーを配置する
- ・1部⇔2部の各試合、ゲームスーパーバイザーを配置する
- ・1部⇔2部の各試合、決勝リーグ戦より可能な限りレフェリースーパーバイザーを配置する
- ・試合中のドアマンは必ずフルフェイスマスクを着用する。

#### 【参加資格】

日本アイスホッケー連盟、関西学生氷上競技連盟及び、日本学生氷上競技連盟に  
日本アイスホッケー連盟及び、関西学生氷上競技連盟に登録された令和8年8月25日迄に  
競技者、マネージャー、監督、コーチ等（日本アイスホッケー連盟の登録基準による）  
なお、関西学生氷上競技連盟には大学の学生のみが登録できるものとし、聴講生などは不可とする。  
また、チームの代表者がラインズマンクリニックに出席していることが、チームとしての  
参加条件となる場合がある。試合前に提出されたメンバー表に名前が記載されていない者は、  
選手、監督、コーチ、トレーナー、マネージャーの別なく、その試合でベンチに入ることはいできない。  
又、マネージャーに関してはメンバー表に記載する欄がないのでその余白に記載することとする。

#### 【各ディビジョンにおける試合時間】

##### 〈予選リーグ〉

##### （イ）1部リーグ戦（予選）

正規20分×3ピリオド インターバル12分 練習時間10分 タイムアウト有(1回のみ)

(延長戦無し、引き分けあり。10点差以上ついた時点からランニングタイム。9点差に戻った場合は正味タイム)  
ペナルティーの際はランストップを行う

※各ピリオドごとにザンボニーによる製氷作業有。

※試合終了時間が貸切時間を超えそうな場合は試合終了時間2分前に終了。

##### （関大リンク、尼崎リンク）

##### （ロ）2部リーグ（予選）

正規15分×3ピリオド インターバル5分 練習時間5分 タイムアウト有(1回のみ)

(延長戦無し、引き分けあり。10点差以上ついた時点からランニングタイム。9点差に戻った場合は正味タイム)  
ペナルティーの際はランストップを行う

※試合終了時間が貸切時間を超えそうな場合は試合終了時間2分前に終了。

##### 〈順位決定戦〉

##### （ハ）1部リーグ上位戦と1部⇔2部リーグの交流戦（3ピリ後同点の場合は速やかにオーバータイムへ移行）

正規20分×3ピリオド インターバル12分 練習時間10分 タイムアウト有(1回のみ)

※各ピリオドごとにザンボニーによる製氷作業有。

(延長戦あり、引き分けなし。10点差以上ついた時点からランニングタイム。9点差に戻った場合は正味タイム)

##### （ニ）2部リーグ下位戦

正規15分×3ピリオド インターバル5分 練習時間5分 タイムアウト有(1回のみ)

(延長戦無し、引き分けあり。10点差以上ついた時点からランニングタイム。9点差に戻った場合は正味タイム)

※試合終了時間が貸切時間を超えそうな場合は試合終了時間2分前に終了。

#### 【勝敗の決定】

##### 〈リーグ戦〉

第3ピリオド終了後、得点の多い方を勝ち、同点の場合は引き分けとする。

##### 〈上位戦・交流戦で引き分けが無いディビジョン〉

第3ピリオド終了後、得点の多い方を勝ち、同点の場合は速やかに（休憩なし）5分間のオーバータイムを  
3人対3人で行う。どちらかのチームに得点があった時点で試合終了。

オーバータイムにて決着が着かなかった場合は、各大学3人ずつのゲームウィニングショットを行う。

国際アイスホッケー連盟スポーツ規定に定められる「ペナルティー・ショット・シュート アウト」

(以下PSS)の方式に従い、3名によるPSSにより勝敗を決定する。

この場合3名のノミネートは不要で、リンクサイドは片面だけを使う。尚、3名で決着がつかない場合はタイ・ブレイク方式(サドンデス方式)で行い、その場合は同じ選手が何回続けてショットしても良い。

※試合終了時間が貸切時間を超えそうな場合は試合終了時間7分前に終了。

(ただし関大リンクに限る。2.75H枠) すぐさま3人ずつのGWSに進む

#### 【順位決定】

順位決定の方法は勝点制による。但し勝点は下記の通り

(勝ち…3点、引き分け…1点、負け…0点、オーバータイム勝ち…2点、オーバータイム負け…1点)

勝点が同数の場合は次の順で決定する。

- (イ) 勝敗同数校の対戦成績の勝ちの方を上位
- (ロ) 勝敗同数校の中で得失点差の大きい方を上位
- (ハ) すべての得失点差の大きい方を上位
- (ニ) ペナルティー延べ時間の少ない方を上位
- (ホ) 上記すべて同じ場合は昨年度上位校

(1) 学連の決めた不戦敗スコアはすべて0-15とする。

(2) 総合順位決定

交流戦の結果によりランキングをつける。

全日インカレは関西リーグ戦の結果で上位4校～7校(ファーストへ参加資格)と

上位8番目がセカンドへ参加資格。

関西、同志社、立命館はすでに参加資格あり。

(3) 参加資格を持たない競技者(未登録、登録回数を超えた場合、不正登録)が出場した場合失格とする。また、監督もしくはコーチ等がベンチに不在の場合没収試合となることもある。なお、失格の場合成績は0-15で負けとする。但し勝利を宣告されたチームがその時点で16点以上得点している場合はその得点を、また没収(敗戦)を宣告されたチームに関しては、常に0点として記録される。

#### 【賞の種類】

|      |       |                         |
|------|-------|-------------------------|
| (団体) | 1部    | 1位～4位 賞状                |
|      | 1部⇔2部 | 優勝 賞状                   |
| (個人) | 1部    | 最優秀選手賞、新人賞、優秀選手賞、BEST 6 |
|      | 1部⇔2部 | 優秀選手賞                   |

#### 【サスペンション】

- ・背後、頭部へのハードチェックで、相手が怪我をした場合は、何試合かの出場停止を科す。
- ・悪質なペナルティー(暴言、乱闘、スペアリング等)も、同様の出場停止とする。
- ・ゲームミスコンの反則が発生次第、早急に懲罰委員会を開催し処分を決定する。
- ・審議委員会は本連盟の会員、加入団体の登録及びその資格並びに規則等に関する事項について審議し、諮問に応ずる。

#### 【委員会】

|      |                                  |
|------|----------------------------------|
| 懲罰委員 | 吉田 一夫(長)、山本 伸一、小川 正巳、大江 俊光、畠中 晴彦 |
| 審議委員 | 佐々木 史郎、辻次 良治、高倉 浩一、足立 優、畠中 晴彦    |

#### 【写真使用の了承について】

弊連盟のホームページ開設にあたり、各大学の試合の様子を撮影及びホームページ、ツイッター、インスタグラムへの掲載を予めご了承下さい。

#### 【分担金振込先】

リーグ戦分担金は ゆうちょ銀行 店番458 普通預金2686826

関西学生氷上競技連盟 竹村 繁喜

金額は後日お知らせいたします。

## 公益財団法人日本アイスホッケー連盟 リスペクト憲章

この憲章は、公益財団法人日本アイスホッケー連盟（以下「本連盟」という）のヴィジョン並びに公益財団法人日本スポーツ協会のスポーツ憲章第6条「スポーツに関わる者の心得」の具現化に向けて、本連盟と加盟団体が一体的に取り組むための基本的な事項を示したものである。

### （競技に関わる者の心得）

第1条 アイスホッケー競技に関わる全ての者は、スポーツ精神及びスポーツの使命を十分に認識し、それぞれの立場に応じて、次の各号に定める事項に配慮しなければならない。

#### （1）フェアプレー

フェアプレーの基本はルールをしっかりと知った上で、それを守ろうと努力することである。我々アイスホッケーに関わる全ての者は、競技規則はもとより、本連盟倫理規程や関連するガイドラインを守らなければならない。

#### （2）相手選手への敬意

相手チームの選手は、アイスホッケー競技を楽しむために必要な、同じアイスホッケーを愛する仲間たちである。その仲間に敬意をはらい、暴力をふるったり、怪我をさせたりするようなプレーは絶対にしてはならない。

#### （3）レフェリーへの敬意

レフェリーは、両チームが公平に試合ができることを委ねた人たちである。例えばミスがあったとしても常に審判を信頼し、そのジャッジは尊重されなければならない。

#### （4）感謝と尊敬

我々はアイスホッケーに関わる多くの人々に支えられて、この競技を続けることができる。会場を用意してくれた人、試合を運営してくれた人、そして応援してくれた人に、いつも感謝と尊敬の気持ちを伝えなければならない。

### （行動規範の制定）

第2条 本連盟は、前条に掲げた事項の実効性の確保を図るため、試合における行動規範を定めるものとする。

### （周知活動の実施）

第3条 本連盟及び加盟団体は、普及育成合宿、指導者養成研修及び各競技会における監督会議など、あらゆる機会を通じて、第1条に掲げた事項並びに第2条に掲げた行動規範の周知に努めるものとする。

### （本憲章の適用）

第4条 この憲章は、本連盟及び加盟団体並びに本連盟の会員に対して適用されるものである。

### （改 廃）

第5条 本規程の改廃は、理事会の決議を経て行う。

付則1 この憲章は、令和2年12月19日から施行する

## リスペクトキャンペーン行動規範

### 1. リスペクト憲章の周知徹底（原点として行われるべき行動、周知活動）

公益財団法人日本アイスホッケー連盟（以下、本連盟）は下記の通り「リスペクト憲章」を定め、競技に係る全ての人々が各々の立場で「フェアプレー&リスペクト」を実践することを宣言しています。アイスホッケーに興味を持ち、これから始めようとしている子供たち、その保護者・ご家族等関係者の方々に對しても（競技へのファースト・コンタクトの貴重な機会を逸することが無いように）指導する立場の者がまず「リスペクト憲章」およびその精神をしっかりと伝え、そして自らこれを率先して実行することが求められています。

#### 「リスペクト憲章」（第1条 競技に関わる者の心得）

##### （1）フェアプレー

フェアプレーの基本はルールをしっかりと知った上で、それを守ろうと努力することである。我々アイスホッケーに関わる全ての者は、競技規則はもとより、本連盟倫理規程や関連するガイドラインを守らなければならない。

##### （2）相手選手への敬意

相手チームの選手は、アイスホッケー競技を楽しむために必要な、同じアイスホッケーを愛する仲間たちである。その仲間に敬意をはらい、暴力をふるったり、怪我をさせたりするようなプレーは絶対にしてはならない。

##### （3）レフェリーへの敬意

レフェリーは、両チームが公平に試合ができることを委ねた人たちである。例えミスがあったとしても常に審判を信頼し、そのジャッジは尊重されなければならない。

##### （4）感謝と尊敬

我々はアイスホッケーに関わる多くの人々に支えられて、この競技を続けることができる。会場を用意してくれた人、試合を運営してくれた人、そして応援してくれた人に、いつも感謝と尊敬の気持ちを伝えなければならない。

### 2. 試合開催時における行動規範

本連盟主催大会（関西学生リーグ戦）における行動規範（例）を以下に提示します。本連盟加盟団体はその主催大会において、施設、試合環境、時間的制約などを考慮した上で可能な範囲において本行動規範に従って、指導者、選手、ゲームオフィシャルおよび観客などに対しリスペクト精神の徹底をはかってください。

## 2-1 指導者：監督会議の実施（内容：リスペクト精神の徹底）

### （１）監督会議の実施

運営責任者は大会前に必ず監督会議を実施し、リスペクト・フェアプレー精神の徹底を図ります。

### （２）監督会議の参加者

監督会議には試合運営責任者、ゲームスーパーバイザー、レフェリースーパーバイザー、参加チームの監督、マネージャーが必ず出席するものとします。

### （３）確認事項（試合開催および進行等に関する事案と共に、以下の確認を行います）

・試合開催にあたって本連盟および参加者に求められる義務の確認（運営責任者より会議参加者へ「リスペクト憲章」の提示と併せ確認）

a) 本連盟は、試合が公正かつ安全に行われるための大会運営および競技に関する全ての権限・責任を有し、競技に関わる者は本連盟の定める規程と指示を遵守する。また本連盟は大会参加者が最高水準の行動と規律を保つよう監督し、全ての参加者は自らの行動と態度のみならず試合の安全性向上と振興のための責任と自覚を持たねばならない。

b) 大会参加者は、リンク上、会場内、移動行程、宿舎で適切に行動しなければならない。競技の利益を損なう行為、競技への不信を招く行為および不正行為を行ってはならない。

・監督の役割の確認（ゲームスーパーバイザーより両チームへ）

大会に参加するチームの選手やスタッフに必要な指示を行うのは監督の責務である。本連盟が定める規程に違反した場合並びに試合運営者、レフェリー・ラインズマン、相手チーム監督・選手へのリスペクト精神を欠いた行動・言動は、選手、スタッフと共に監督もその責任を負う。

・レフェリー・ラインズマンへの対応についての確認（レフェリースーパーバイザーより両チームへ）

レフェリー・ラインズマンへのリスペクト精神の徹底を改めて求めると共に、後述、レフェリーの行動規範で示した試合中の対応についても確認を行う。また、直近の試合等でラフプレイなどの問題が発生している場合はその情報および対策を共有し再発を未然に防ぐ。

## 2-2 選手：試合前、試合中、試合後の行動

### （１）試合前、選手が行うべき基本行動

・選手整列時は静止し、スティックを動かす等の行為は厳に慎む。  
・対戦相手の選手およびレフェリー・クレーンと握手を行う際は、右手のグラブを外し行う。  
・国家斉唱時は、選手およびレフェリー・クレーンはヘルメットを取り国旗に向かい直立する。この時、ヘルメットは原則左腕で抱え持つ。（困難な場合は持つ位置を統一する）

### （２）試合前の行動

・リンク入場後、観客に向け自陣中央にてベンチに向い整列し一礼、次いで後ろへ向き、整列一礼を行う。  
・試合開始前は両チームがブルーラインに整列しスティックを掲げることで挨拶とする。またこの時、選手およびレフェリー・クレーンはヘルメットを取らなくて良いが、試合前に特別にセレモニーが行われる場合、

選手およびレフェリークルーはヘルメットを取りスピーカーに正対する。

### （３）試合中のリスペクト意識

・レフェリーはルールに従い公平に競技ができるように努めている。選手はいかにエキサイトしようともレフェリーを信頼し、その判断を尊重するよう、特に監督・コーチ・ゲームキャプテンはその範となるべく常にリスペクト意識を保持する。

### （４）試合後の行動

・選手はブルーライン上に整列し、ヘルメットを取り一礼を行う。その後、キャプテンはレフェリーサークルにて最後の挨拶および握手をレフェリークルーと行う。続いて、両チーム選手同士およびレフェリークルーと握手を行う。握手はアウェイチームからレフェリークルー、相手チームへと一列に移動しながら行い、次いでホームチームがレフェリークルーと握手する。監督・コーチはベンチにて互いに挨拶および握手を行う。（延長戦やリンクのトラブルなどにより試合が大幅に遅れている場合に限り、選手同士の握手を省略することができる）

## 2-3 試合会場におけるレフェリーへの敬意表明方法について（試合運営者の対応例）

### （１）試合前のレフェリー紹介

・試合開始にあたり、ピリオド間の選手紹介とともにレフェリー・ラインズマン紹介を行う。

## 3. レフェリー・ラインズマンに求められる行動規範

選手・指導者には対戦相手、観客そしてレフェリー・ラインズマンに対してのリスペクト精神が求められますが、これと同様、レフェリー・ラインズマンにも

- ・選手・指導者、観客に対しリスペクト精神をもって接すること
- ・試合中においては選手・指導者との信頼関係を構築すべく努力すること

（試合進行の円滑化のため、反則を未然に防ぐための「選手への事前の声掛け」等もその手段となる）が求められます。また自らの技能向上に努めるのは勿論のこと、国際連盟（IF）主催大会（世界選手権等）の「（グローバルスタンダードとしての）判定基準」を常に注視、レフェリー委員会を通じ本連盟関係各位および国内レフェリー・ラインズマンに周知徹底することで「判定基準の統一」をはかることが求められます。

### 3-1. レフェリー・ラインズマンのジャッジ（対応方法）の統一と告知

試合中の微妙な判定につきチームへの説明を行う必要があるケースの確認（基準の統一）およびその際の説明場所・説明方法につきレフェリー委員会にて統一見解を示し、本連盟加盟団体に通達します。

### 3-2. 罰則規定の適用について

「2018-2022 年度アイスホッケー公式国際競技規則」第 116 条：アビューズ・オブ・オフィシャル及び、第 168 条：アンスポーツマンライク・コンダクトの適用につき、レフェリー委員会にて判定基準の確認・適用の徹底をはかり、また試合前には運営責任者が監督会議等でその旨周知徹底します。